

能登半島地震から1か月がたちました。できるだけ早く日常を取り戻していただけることを願っています。しかし、電気は復旧しつつありますが、水道の復旧にはまだまだ時間がかかるようです。道路の復旧にも時間がかかりそうですし、海底が隆起したため港が使えないので漁業が以前のように戻るのか心配です。私たちにできることはなんだろう。義援金などに協力するのもよいだろうし、能登半島の海産物や地酒を購入するのもよいだろう。それよりも今日の業務を安心して着実にこなしていくことも、できることのひとつであることを、スタッフとともに確認して一日一日を大切に過ごしています。

先月から今月にかけて、多くのスタッフが実習や見学・面接を行いました。その結果を受けて、めでたく就労が決まったスタッフもいます。1名のスタッフが就労先を決めてオフィスを卒業していきました。また4月1日から新生活を始めることが決まったスタッフもいます。しかし、実際に業務を経験してみて、体調がうまく合わなかったり、業務内容が自分には合わなかったりするスタッフもいます。まだ結果が出ていないスタッフもいますが、自分の進路ですから、いろいろなアドバイスも参考にしながら自分で自信と責任をもって決めていってほしいです。

今月は、支援員の家族に不幸がありスタッフの移動ができなくなり、急遽依頼業務を中止する事態が生じました。また、雪のためにスタッフが定時に出勤することが困難であると予想されたため、こちらも依頼業務を中止しました。とても残念でしたが、2月に挽回して業務ができたらと願っています。

1月の給料が支給されましたが、明細書をみてスタッフ本人も支援員もびっくり。実習は「欠勤」扱いで無給になるため、予想されたことですが、改めて明細書を見るといつもの半額程度に。1月の時間数を締め切ると、こちらもいつもの半分程度の勤務時間となりました。生活に影響があるかもしれませんが、上手にやりくりしていきましょう。

雪が降れば

雪が降れば、当然のように雪かきです。関特別支援学校のバスヤードなどは先生たちが粗方やられるので、スタッフは太陽の日が当たる場所や、車などに影響のない場所に雪を動かして、スムーズに溶けるのを促進します。一方で雪だるまを作ったりもして、楽しみながら除雪作業に取り組みました。

実習がんばって

複数のスタッフが実習に行ったので、残ったスタッフでいつも校内での業務や依頼先での業務をこなしました。実習先でトイレ掃除をしているスタッフを思いながら校内のトイレ掃除をしたり、いつも頑張って草取りの業務をしていたスタッフの分までがんばって業務を行ったりする姿も見られました。廃棄する木工製品の備品を木工室で分解したり、支援員が丸鋸盤でゴミ袋に入る大きさに切断することで、スタッフの作業量を維持したりもしました。また、支援員が実習先を実習前後に訪問したり、メールで質問や相談をうけたり、必要なアドバイスをしたりもして問題なく実習を終えることを目指しました。

※今月は、なんと写真が1枚もありません。